



乳がんの早期発見、診断、治療を呼び掛ける「ピンクリボン運動」の一環の催し「ピンクリボンミニウォーク」が21日、さいたま市中央区のさいたま新都心けやきひろばなどで行われ、300人が1・8キロの道のりを歩き、検診受診の重要性を訴えた。

県、さいたま市などで組織するピンクリボン運動推進埼玉県委員会(事務局・戸田中央医科グループ)が主催。10月の「世界の乳がん月間」に合わせ、これまで戸さいたま新都心で初開催の「ピンクリボンミニウォーク」でスタートする参加者。21日午後、さいたま新都心けやきひろば1階プラザ

早期の検診を 中央区でピンクリボンウォーク

田市内で行われていた催しを今年、さいたま新都心で初開催した。主催者としてあいさつした清水勇人さいたま市長は「乳がんの検診率はまだ低い。しかし、早期発見で治療できれば怖い病気ではない。ピンクリボン運動を通じ、乳がん撲滅を」と参加者に呼び掛けた。

参加者はけやきひろばをスタートし、駅やコクーンシティを経由して、中央区新都心のさいたま赤十字病院前特設会場へ。特設会場では擬似乳房体験、乳がん自己検診、パネル展示などが行われ、正しい知識を持つことの重要性や、検診の早期受診の大切さを学んだ。

(新井護)